

# 専齋 SENSAI



江戸系、肥後系、伊勢系の171種類、約10万株(30万本)もの花菖蒲が咲き誇る大村公園。  
ヘリドッグ太くんも初めて見に行ってきました！！

## 診療科紹介 update

Vol.7 形成外科

## 医長紹介～私の専門分野～

脳梗塞急性期治療 ～血栓回収療法～

## 医療雑感

## TOPICS

- ・ 新任医師紹介
- ・ 認定証「病院機能評価」が届きました
- ・ 永年勤続者表彰式
- ・ 楠田展子先生から携帯用エコーをご寄付いただきました
- ・ 特定行為研修を開講しました

## 看護部だより Vol.22

WEB見学会のお知らせと  
令和3年度初期研修医採用試験のご案内

地域医療連携室からのお知らせ

## 長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。



左から井町、野口、藤岡、福井

### 形成外科とは

顔面、手などの体の表面における先天異常の治療から、外傷、熱傷および瘢痕や拘縮、ケロイド、顔面神経麻痺など後天的な変形に対する治療、難治性潰瘍や軟部組織感染症や壊疽、また乳癌や頭頸部癌など腫瘍摘出後の再建術にいたるまで、幅広い領域をカバーする外科学です。それぞれの分野に対応するためには形成外科の一般的な技術だけでなく、マイクロサージャリーやクラニオフェイシャルサージャリーといった特殊な技術と豊富な経験が要求されます。

長崎医療センター形成外科では、4人のスタッフが、それぞれの専門分野を生かしながら、患者にとって最適な治療法を選択して診療に当たっています

### 長崎医療センター形成外科で 取り扱っている主な疾患

2019年に長崎医療センター形成外科で行った手術件数は951件で、そのうち497件は全身麻酔です。また69件は他科との合同手術で主に癌切除後の再建を行っています。

入院腫瘍疾患別臨床統計ならびに治療成績

	疾患名	症例数	死亡退院数
1	外傷	347	3
2	腫瘍、母斑、血管腫	299	
3	難治性潰瘍	163	
4	軟部組織感染症	46	1
5	先天異常	44	
6	瘢痕・ケロイド	37	
7	その他	15	

2019年の形成外科手術

1. 外傷：顔面の骨折、軟部組織損傷などの新鮮外傷のみならず、顔の瘢痕、醜形や陳旧性骨折の手術も行っています。また、手指の外傷、顕微鏡下での指の再接着、手の機能の再建も行っています。
2. 皮膚・軟部腫瘍：皮膚、軟部組織の良性、悪性腫瘍の切除とともに、切除した組織欠損や変形に対する機能・整容的な再建を行っています。
3. 4. 難治性潰瘍・軟部組織感染症：糖尿病、血管閉塞などの疾患に付随して起こる難治性潰瘍、褥瘡、壊疽に対する集学的な治療を行っています。
5. 先天異常：唇裂、口蓋裂、合指症、多指症、小耳症などの先天性疾患を数多く行っています。
6. 瘢痕・ケロイド：目立つ醜い傷跡を目立たなくするように修正手術を行います。

## 長崎医療センター形成外科の特徴

### 1. 患者中心の治療を行っています。

例えば傷跡一つとってもそれに対する悩みは患者さん一人ひとりで違います。機能的に困っているのか、見た目が気になるのかなど具体的なお悩みにそった治療法を行います。

### 2. 多数の形成外科分野における専門認定施設です。

日本形成外科学会認定形成外科指導医、形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導医、小児形成外科分野指導医、日本熱傷学会認定熱傷専門医、日本創傷外科学会認定専門医、日本手外科学会専門医、日本マイクロサージェリー学会専門医、日本頭頸顔面外科学会認定専門医が中心となって診療を行っています。

### 3. 他科と連携した診療を行っています。

形成外科は頭の前から足の先まで診る科です。そのため疾患が多岐にわたることも多く、小児科、消化器外科、小児外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、矯正歯科、眼科、整形外科、脳神経外科、高度救命救急センターなどとの連携を密に診療を行っています。

### 4. 熱傷センター、創傷センターで診療を行っています。

特殊創傷治療熱傷専門医が機能、整容面も考慮した治療を行っています。ICUに併設されている熱傷ユニットにて、広範囲～全身熱傷の治療も行っています。

### 5. 国際医療協力を推進しています。

形成外科は特殊な外科ですので、国内はもとより海外でもその恩恵に預かることができずに困っている人がたくさんいます。長崎医療センター形成外科では発展途上国の患者さんと呼んで無償で手術したり、海外へ出かけて手術を行う形成外科“Surgical outreach”を行っています。2019年はカンボジアに赴いて39例の手術ボランティアを行いました。これらの活動を通じて発展途上国と長崎医療センター間の制度的協力のもとに定期的な医師派遣と重篤症例の受け入れを行うCommitted Partnership形成に取り組んでいます。



カンボジアでの Surgical outreach

## 脳梗塞急性期治療 ～血栓回収療法～

脳神経外科医長 諸藤 陽一



### 血栓回収療法

脳梗塞急性期治療においては、発症から4.5時間以内であれば、rt-PA 静注療法が標準的な治療として広く行われています。更に近年では、カテーテルを用いた脳血管内治療が行われるようになり、様々な新しい血栓回収デバイスが日本の臨床の現場でも世界に遅れることなく使用することが可能です。これらの血栓回収デバイスを用いた治療(血栓回収療法)による閉塞脳主幹動脈の再開通率は70-90%と非常に高くなっています。2015年に5つの国際共同研究の結果が発表され、脳主幹動脈閉塞による脳梗塞急性期患者に対して、rt-PA 静注療法に加えて、血栓回収療法を行った方が患者さんの回復効果が良好で、自立した生活を送ることができる患者さんが有意に多いという結果でした。これらの報告を受けて、日本の脳卒中ガイドラインにおいても、血栓回収療法はグレードA「行うよう強く勧められる」治療となっています。更に、発症から6-24時間経過した脳梗塞患者においても、条件が整えば、血栓回収療法において非常に良好な転帰が得られることも分かっています。

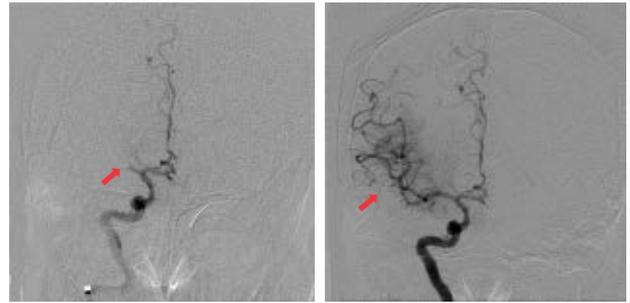
このように、脳梗塞急性期治療は目覚ましく進歩し、血栓回収療法の適応も拡大していますが、一方で血栓回収療法を行い、再開通が得られても、患者さんの回復が思わしくない場合もあります。脳梗塞発症から再開通までに時間がかかっている場合です。脳梗塞を発症してから、より早く治療を開始できれば、良好な転帰が得られる可能性が高まります(再開通が5分遅れるごとに自立した生活を送ることができる患者さんが1%ずつ減っていくといわれています)。

血栓回収療法の恩恵を一人でも多くの脳梗塞患者さんが受けるためには、できるだけ早く脳卒中に気づき、1分でも早く専門医療機関を受診することが必要です。



ステント型血栓回収デバイスと吸引型血栓回収デバイスを組み合わせた治療により回収された血栓の写真

### 脳主幹動脈閉塞に対する血管内治療



- ・突然の構音障害、左片麻痺にて発症
- ・右中大脳動脈閉塞
- ・治療開始から30分で再開通が得られ、再開通直後より構音障害、左片麻痺は消失

### ACT - FAST

米国脳卒中協会では、脳卒中を疑う人を見たら3つのテストをするように勧めています。一つでもあれば、脳卒中の可能性があります。

- Face** : 笑ってください。顔がゆがんでいませんか？
- Arms** : 両手を挙げてください。片方の手が落ちてきませんか？
- Speech** : 簡単な文章を言ってください。言葉が出ない、言葉がもつれることはないですか？
- Time** : これらの症状が一つでもあれば、脳卒中の可能性があります。急いで119番に電話するか専門医療機関を受診してください。

### 一刻も早い治療開始を

長崎医療センターでは、2014年10月より救急科医師を主体とした長崎医療センター脳卒中ホットライン(NMC-SHOT)が運用されており、脳梗塞急性期患者をできるだけ早くrt-PA 静注療法、血栓回収療法につなげるべく多職種からなるチームで努力しております。時間的制約を乗り越えて、血栓回収療法にたどり着くことができれば、高い確率で再開通が得られます。これまでの治療では救命すらできなかった患者さんが、血栓回収療法を行うことで歩いて自宅退院することもあります。皆様にご協力いただき、一刻も早い治療開始、再開通につなげることができるよう努めてまいりたいと思います。

# 医療 雑感

## コロナで広がるオンラインミーティング

総合情報センター 藤本 裕也  
天満 可恋  
山崎 一美

新型コロナウイルス感染拡大および第2波の到来に向けてリモートワークが全国的に推進されています。しかしながら、スムーズな業務を遂行するためにコミュニケーションは不可欠です。そのため、コミュニケーションツールとしてWEB会議サービスを利用の機会が増えてきました。

Web会議サービスとは、パソコンやタブレットを利用し、インターネット上で遠隔地間の会議を行なうサービスで、発表者が資料や自分の端末の画面を見せる機能(画面共有機能)を搭載したものです。

現在、当院で利用しているWeb会議サービスは次の通りです(図参照)。

国立病院機構本部が推奨している「Microsoft Teams」、セキュリティが不安視されているものの、使い勝手が良く若い世代で利用者が急増している「Zoom」、高いセキュリティと世界的な利用者数が最も多いといわれる「Cisco Webex」、また、事業者によってはSkypeのみ利用可能な場合もあります。

相手や状況・内容・搭載している機能に合わせて使い分けています。

オンライン会議を始めるときに注意したほうが良いこと4点です。

- 1) 自身のカメラ映り  
どのアングルがいいか?顔が暗くないか?気になります。納得できないときは静止画を送る、画像を出さない、などで対応します。
- 2) 背景を考える  
自身の姿の背景を意識しましょう。本だなとか趣味をうかがわせるものとか、意図的に配置してイメージアップをめざします。逆に注意しないとまずいものが映ったりします。
- 3) チャット機能  
話すだけではなく書き込む機能もあります。相手が話しているとき、チャットで激しく同意したり、突っ込んだり、皮肉ったり・・・
- 4) ミュート機能  
オンかオフかの設定を間違えると、まずいことが聞かれたりします。

うまく使って、コミュニケーションを深めましょう。

Web会議システム比較表(2020年6月現在)

		Teams (Microsoft)	Skype (Microsoft)	Zoom (Zoom社)	Webex (Cisco)
OS	Windows	○	○	○	○
	Mac	○	○	○	○
	iOS	○	○	○	○
	Android	○	○	○	○
接続最大人数		250	50	100	100
画面共有機能		○	○	○	○
アカウントなしで参加		○	○	○	○
アカウントなしで開催		×	○	×	×
録音・録画		×	○	○	主催者のみ可
セキュリティ		○	○	△	◎
NHO本部推奨		◎	○	△	△
その他機能		共有ストレージ・ 背景のぼかし・ バーチャル背景	背景のぼかし	バーチャル背景・ ホワイトボード等	ホワイトボード・ 投票等

## 新任医師紹介



腎臓内科医長  
浦松 正

腎臓内科の浦松と申します。2020年6月より長崎大学病院から異動してまいりました。2000年に長崎大学を卒業して、2003年から約3年にわたり長崎医療センターで勤務させて頂いたことがあります。自分を育ててもらった長崎医療センターで、また働くことができるということで非常に嬉しく思っています。少しでも地域医療に貢献できるよう勤めてまいりますので、何卒宜しくお願い致します。



消化管内科医師  
今村 祥子

6月より長崎市より転勤となりました、消化管内科の今村祥子と申します。長崎医療センターで勤務するのは初めてですが、早く環境に慣れ、戦力になれるよう頑張りますのでよろしくお願います。



耳鼻咽喉科医師  
松本 浩平

6月より赴任した松本浩平と申します。出身は五島列島の福江島で、高校を卒業するまで18年間を過ごしました。幼い頃に「たいへんな人(悪い子)はヘリコプターで大村に運ばれる」という少し誤った教育を受けて育ちました。大人になり、まさか自分がその大村で働くことになるとは夢にも思いませんでした。これからは故郷から運ばれる「たいへんな人」はもちろんのこと、地域の医療に貢献できるよう頑張ります。



## TOPICS

### 認定証「病院機能評価」が届きました

管理課長 島田 登志男

2020年1月22日～23日の2日間で受審した病院機能評価について、5月8日付で認定証(3rdG:Ver.2.0)が届きましたので報告させていただきます。

3月10日に中間的な結果報告が届き、一般病院2で89項目、副機能(精神)で26項目の計115項目からなる評価を受けました。

今回は、諸事情によりまともに模擬審査を受けることが出来ず、一抹の不安を抱えながらの受審ではありましたが、S評価4項目、A評価104項目となりました。前回(S評価5項目、A評価78項目)を上回る評価を頂き、また無事認定されたことに対して安堵しております(S評価が1項目減ったのは残念ですが)。

S項目、A項目を維持しながら、B項目(一定水準に達している)をより充実していくことで、当院が掲げる5つの使命が全う出来るものと思います。



最後になりましたが、今回受審に携わった職員の皆さま大変お疲れ様でした。

平成17年4月に第1回目の認定を受け、今回で4回目の認定となりました。頂きました星4つです。

TOPICS

## 永年勤続者表彰式

庶務班長 牧園 孝之

国立病院機構では、永きにわたり機構に貢献していただいた職員に、勤続30年と勤続20年の節目の年に表彰をおこなっています。今回は勤続30年が5名、勤続20年が14名の計19名の職員が表彰されました。これまでの貢献に感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



30年表彰  
受賞者

職名	氏名
看護師長	田中 康子
副看護師長	中村 みさ
看護師	天野 清子
看護師	長坂 隆史
調理師	田畑 好徳

20年表彰  
受賞者

職名	氏名
病理主任	山川 彩
診療放射線技師	秋山 亜樹
看護師長	清水 周二
看護師長	吉浦真由美
副看護師長	芦塚 睦美
副看護師長	内野紀代美
助産師	泉 美穂子
助産師	早田 知子
看護師	今村 理佐
看護師	久留須香代子
看護師	櫻井 愛
看護師	野口みどり
看護師	毎熊 明子
看護師	山口のり子

TOPICS

## 楠田展子先生から携帯用エコーをご寄付いただきました

産婦人科部長 安日 一郎

本年3月に定年退職された産婦人科、楠田展子先生から当院産婦人科に高価なポータブルタイプのエコー診断装置をご寄付いただき、5月28日(木)、待望の贈答式が行われました。

楠田先生は2003年から18年間、当院の産婦人科のスタッフとして勤務されました。個人的な話で恐縮ですが、私と楠田先生は長崎大学産婦人科入局の同期であり、1982年、長崎大学産婦人科から当院の未熟児センター(現総合周産期母子医療センター、当時は小児科の1部門でした)に定期的な新生児研修派遣(3ヶ月)が始まった最初の年に、未熟児センターで研修した同期でもあります。その後の大学医局からの派遣を含めて現役医師としての半分を当院で過ごされたこととなります。2003年当時の当院の産婦人科は研修医はいたりいなかったり、医師3名体制、昨今の働き

方改革など微塵もない「悲惨な」状況の中、新たなスタッフとして楠田先生に加わっていただいたとき、思わずバンザーイと叫んだことを昨日のこのように憶えています。我々の同士として長い間、ありがとうございました。エコーは大事に、大切に、使わせていただきます。



## 特定行為研修を開講しました

副看護部長 天野 由美



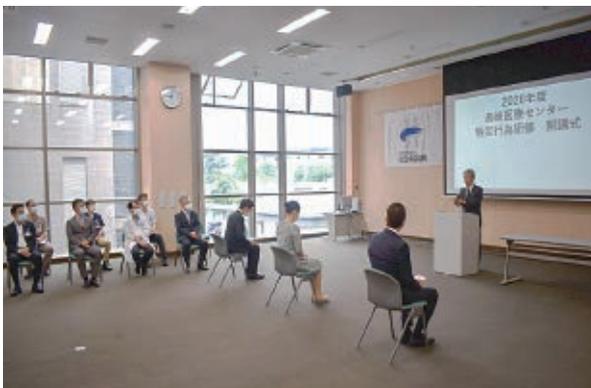
令和2年6月1日(月)に、長崎県で初の特定行為研修を開講いたしました。新型コロナウイルスの影響によって、研修生の応募はあるだろうか？研修自体を開講してよいものだろうか？と心配の種は多々ありましたが、どうにかこの日を迎えることができました。

特定行為とは、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる行為で、現在、21区分38行為あります。当院では、約8か月をかけて講義—演習—実習を行い「呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連」「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の4区分8行為が実践できる能力を養います。

当院が、この研修施設として厚生労働省の指定を

受けた背景には、①2019年2月時点で全国には113の研修施設がありましたが長崎県には一つもなかったこと、②長崎県は多くの離島を有し、特定行為が実践できる看護師の活躍の場があること、③当院には、昭和46年から臨床研修医の教育を実践しており、指導医・専門医資格を有する医師の指導のもと多数の臨床研修医、専門医を輩出してきた実績があること、④看護の分野においても平成26年度から診療看護師を臨床現場に配置しており、診療看護師は、医学的な知識と看護の視点を合わせもち、21の特定行為区分すべての特定行為を実践できることから、特定行為研修の指導者として適任であるなど、当院の診療機能と豊富な人材を活用することで質の高い特定行為研修を実施することができ、それが長崎県の地域医療に貢献することにつながると考えたためです。

このような考えのもと、令和元年度に準備を開始し、診療部の皆様のご協力を賜り、令和2年2月26日付で指定研修機関として指定を受けることができました。そして、この度、3名の第1期生を迎え、開講式を開催することができました。自己のキャリアアップを目指している3名の受講生や8か月も研修に出して下さった施設の皆様のご期待に添える研修となるよう取り組んで参りたいと思いますので、どうぞ、皆様のご支援をお願いいたします。そして、来年1月に誕生する特定行為研修修了生の姿を楽しみにお待ちしております。本誌でも今後研修の様子をお伝えしてまいりますので、ご興味のある方は、ぜひ、次年度チャレンジしていただければと思います。



開講式



演習(症例検討)の様子

# 看護部だより Vol. 22

## アドバンス助産師としての活動

4B病棟 田尻 亜希

当院は、総合周産期母子医療センターであり、ハイリスクの妊娠、出産、そして新生児管理までの総合的な管理を担っています。様々な合併症を抱えた妊婦と赤ちゃんの無事な出産と後遺症のない健やかな発育を目指して、日々奮闘しています。当病棟のスタッフには、アドバンス助産師が12名在籍しています。アドバンス助産師とは、日本助産評価機構によって、助産実践能力を審査され、一定の水準に達していることを認証された助産師のことです。この認証を受けることで、妊産褥婦やその家族をはじめとする社会の人々に、専門職としての説明責任を果たし、助産実践の質の向上に貢献することができます。

当病棟のアドバンス助産師は、周産期救急に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースであるAdvanced Life Support in Obstetrics (ALSO)の参加、BFH認定病院(赤ちゃんにやさしい病院)として母児に寄り添った母乳育児の推進、地域中学校での思春期教育の実施など、知識の維持や向上のため研修会の参加や企画、現場での後輩育成、地域での活動など、様々な場面でリーダーシップを発揮しています。その中でも、超緊急帝王切開術や死戦期帝王切開術のシミュレーション、新生児蘇生法(NCPR)、母乳育児の勉強会などを定期的に行い、妊産褥婦や赤ちゃんの安全を守るための活動に力を入れています。

NCPRにおいては、小児科医師や産科医師と協力し、病棟内勉強会だけでなく、新生児蘇生法普及事業の公認講習会として、専門コース(Aコース)、スキルアップコース(Sコース)を開催しています。この講習会には、県内外から分娩に携わる医療スタッフが参加されています。また、当院のみでなく県内地域の産科に携わる医療スタッフへ向けて、個人病院へ出向し、出張スキルアップコースも実施し、全ての赤ちゃんの安全を目指しています。

今後、アドバンス助産師として、当院だけでなく地域にも視野を広げ、周産期に携わるスタッフの技術の向上をはかり、全てのお母さん、赤ちゃんの安全を守るために活動していきます。



超緊急帝王切開術シミュレーション



NCPR勉強会



地域の産科スタッフとの勉強会



母乳育児カンファレンス

## WEB見学会のお知らせと令和3年度初期研修医採用試験のご案内

### WEB見学会のお知らせ

現在新型コロナウイルス感染対策の為、病院見学会を中止し、WEB説明会を実施しております。

初期研修プログラムの説明や、必須研修科(総合診療科・救命救急センター)の説明、現役研修医、当院初期研修修了の生の声をお届けします!当院のマッチング試験受験をお考えであれば、ぜひご参加ください。

### 【7月のWEB説明会の開催予定】 7月3日(金)・7月17日(金)

※受付開始日につきましては、随時病院ホームページに掲載させていただきます。

### 令和3年度初期研修医採用試験の受験者を 下記日程で募集しております。

【選考日】	【締切日(必着)】
第1回: 8月7日(金) 長崎医療センター	7月27日(月)
第2回: 8月14日(金) 長崎医療センター	8月3日(月)
第3回: 8月15日(土) 福岡(JR博多シティ)	8月3日(月)
第4回: 8月21日(金) 長崎医療センター	8月10日(月)
第5回: 8月28日(金) 長崎医療センター	8月17日(月)

採用方法: 公募により選考をおこなう(マッチングに参加する)。

- (1) 小論文: 選考日に実施、課題について800字程度を60分間で論述。
- (2) 面接審査: 個人面接で、ひとり20分程度の面接

※詳しくは当院HPをご覧ください。

<https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/>

## 地域医療連携室 からの お知らせ

すでに多くの患者さまがお持ちの「お薬手帳」を、当院受診時にご持参いただくようお声がけをお願いいたします。もし「お薬手帳」をお持ちでない場合は、現在飲んでおられるお薬をご持参いただくようお声がけ頂ければ幸いです。

内服薬の履歴は、投薬や手術のタイミングなどの治療方針決定において、重要な情報です。宜しくご協力のほどお願いいたします。

### お問い合わせ先

お問い合わせ TEL 0120-731-062  
 予約申込み専用 FAX 0120-731-063  
 予約受付時間 平日(月～金曜日) 8:30～17:00  
 16:30以降に届いた分は翌日扱いになります。  
 休診日 土日・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



### 理念

高い水準の知識と技術を培い  
 さわやかな笑顔と真心で  
 患者さん一人一人の人格を尊重し  
 高度医療の提供をめざす

### 長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対には断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する